

問題 質的データの分析に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 第23回 (2011年) (83)
- 1 KJ法の目的は、集めた意見やデータの分類と集約を通して、新しい発想や仮説を創造することである。
 - 2 会話分析は、発話者がいかにして相互行為を統序立てて生み出すかを解明するために、会話の形式や構造ではなく、その内容に関心向ける。
 - 3 ソシオグラムでは、ある組織や集団の構成員同士の関係を、矢印のない無向グラフで表す。
 - 4 グラウンデッド・セオリー・アプローチでは、データ収集とコーディングを繰り返した後、これ以上新しい概念やカテゴリーが出てこないかと判断される状態を、現実的飽和という。
 - 5 質的調査の信頼性と妥当性を高めるために、インタビュアー、参加観察、質問紙調査など複数の調査法を組み合わせることを、エスノグラフィという。

答え 1

会話分析では、内容ではなく会話そのものに関心向ける(2は適切でない)。ソシオグラムでは矢印も用いられる(3は適切でない)。グラウンデッド・セオリー・アプローチの分析の最終段階は現実的飽和ではなく、理論的飽和である(4は適切でない)。エスノグラフィ(エスノグラフィー)とは調査対象の生活世界において、その行動様式や文化などを明らかにする調査方法という(5は適切でない)。

質的データの分析に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 グラウンデッド・セオリー・アプローチでは、データの収集と分析が一体となり、繰り返し実施されるのが、その特徴の一つである。
- 2 KJ法を利用して質的データを分類するには、理論的枠組みに基づいてあらかじめ設定された分類軸が必要である。
- 3 ドキュメント分析を行う際、公的機関の統計や文書あるいは新聞・雑誌などのメディアア文書は分析の対象となるが、日記や手記などの個人的記録は分析の対象とはならない。
- 4 グラウンデッド・セオリー・アプローチにおける軸足コーディングは、単一の事象に対して、複数のコードをはり付けていくことである。
- 5 KJ法は、質的データの分析において、主として仮説の検証を試みる際に活用される。

質的調査の代表的な分析手法について問うている。速読肢の内容に関しては最低限、確実に理解しておく。

- 10 グラウンデッド・セオリー・アプローチは、ストラウスとグラゼナーが開発した手法であり、社会的現象に対して、質的データの収集と分析を反復して行うことで、データに根ざした理論の生成を目指す手法である。
- 20 KJ法は、カード等を分類しながら探索的に理論的な枠組み等を分析していく手法である。
- 30 ドキュメント分析では、文字になっているすべての資料が分析対象である。
- 40 軸足コーディングとは、データを分類、検証、比較、概念化、及びカテゴリー化した後に行う、諸カテゴリー間を関係づける作業のことである。
- 50 KJ法は、仮説を構築する時によく用いられる手法である。 ** 正解 1

調査手法としての面接法に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 構造化面接では、面接の進行は、調査対象者に任せるのが望ましい。
 - 2 非構造化面接では、通常、詳細な質問項目や質問紙をあらかじめ用意しない。
 - 3 社会調査で行われる面接は、収集するデータの信頼性からも、1対1で行われるのが望ましい。
 - 4 半構造化面接では、通常、回答の選択肢を印刷した回答票を、回答者に提示して調査を進める。
 - 5 面接法を用いる際には、調査者と調査対象者との間にラポールが形成されるのは、データの信頼性を確保する上から望ましくない。
- 面接法は大きく「構造化面接法」、「半構造化面接法」、「非構造化面接法」の3つに分けられる。これらの区分はさほど難しくはないので、十分に理解しておく必要がある。
- 10 構造化面接法とは、事前に決まった質問項目、質問手法で調査対象者に面接することであり、すべて調査者が進行しなければならぬ。
 - 20 非構造化面接法は、面接の状況にあわせて質問項目等を決めていく面接法である。
 - 30 必ずしも一対一である必要はなく、複数の人を対象に面接することもある。
 - 40 半構造化面接法は、ある程度事前に質問項目、質問手法を決定して行う面接法である。
 - 50 調査対象者は、必ずしも初対面の調査者に対してすべてを語るわけではない。何回か対面するなかで、ラポールが形成され、より調査したい内容が聞き取れる可能性が高くなる。

* 正解 2

面接法

構造化面接	事前に質問項目を決めておき、それに沿って進めていく面接手法である。
半構造化面接	ある程度事前に質問項目を決めておくが、面接の状況に合わせて項目を変更していく面接手法である。
非構造化面接	事前に質問項目を決めず、面接の状況に合わせて自由に質問する面接手法である。